

令和 5 年度 第 2 回石巻地域普及活動検討会資料

目 次

- (1) 令和 5 年度完了プロジェクト課題の実績報告
 - ① 令和 5 年度プロジェクト課題成果概要について 1
 - ② No.2 地域のモデルとなる園芸法人の育成強化 2
 - ③ No.4 長面地域における大規模土地利用型経営体の持続的な水田農業の実現 10

- (2) 継続プロジェクト課題の実績報告及び次年度活動計画について
 - ① No.1 産地を形成する多様な担い手のステップアップによるいちごの産出額向上 .. 17
 - ② No.3 小ねぎ産地における次世代の人材育成 24

- (3) 重点課題活動実績について 30

- (4) 令和 6 年度普及指導計画及び新規プロジェクト課題活動計画について
 - ① 令和 6 年度普及指導計画及びプロ課題概要について 32
 - ② 新規No.3 水田におけるばれいしょ及びさつまいもの安定生産 33
 - ③ 新規No.4 省力化技術の活用による優良大豆種子の生産性向上 37

令和5年度完了プロジェクト課題
実績報告

令和5年度プロジェクト課題成果概要

石巻農業改良普及センター

課題名	計画期間	対象(地域等)	概要	課題名	計画期間	対象(地域等)	概要
1 産地を形成する多様な担い手のステッピングによるイチゴの産出向上	令和4年度 ～ 令和6年度	J Aいのまきお産部会: 石巻産産組合(16戸) 南あいちご産産組合(13戸) やもといちご産産組合(7戸) (株)いちごラボ(石巻市) (株)アグリテック(石巻市) (株)トライバルファーム(石巻市) (株)黄金ファーム(石巻市) (株)イグアルファーム(東松島市) (株)サンエイト(東松島市) (株)アンソラ(東松島市)	【背景】 ・近年、高齢化により栽培者数・面積が減少、これに伴い販売額も減少傾向にあるが、需要が堅強い品目と単価も比較的安定している。 ・環境測定機器の導入等、新たな取り組みの動きがあり、栽培技術の向上により収量、販売額の増加が期待できる。 ・農業法人による先端技術を用いた栽培が行われている一方で、いちごを新規品目として取り入れる農業法人の動きがある。 【活動事項】 ・JA 部会への環境制御等新たな技術普及支援 ・各農業法人の課題改善支援 ・新規参入者への基本技術指導 【R5 年度の成果】 ・JA 部会: 各戸において課題となる技術の改善や環境制御など新しい技術の習得・レベル向上が進んだ。 ・農業法人: 各法人の課題改善が進み、販売金額が向上した。 ・新規参入者: 基本技術を習得し安定した栽培ができるようになった。	3 青年部員による小ねぎ産地の活性化 (新規課題) 「園芸振興」関連課題	令和5年度 ～ 令和7年度	J Aいのまきお産部会青年部 11人	【背景】 ・J Aいのまきお産部会は28人で生産活動に取り組んでおり、高齢化の進行や販売準備の低迷等により、生産意欲の低下がみられている。 ・部会には青年部(11人)が組織されており、青年部員が部会の主要な役割(部会長等)を担っていることから、部会の活動方針等については青年部員の関与が大きくなっている。 ・青年部員は、各々が課題を抱えているが、販路の拡大や共同選別の取組など部会の方向性について前向きに考えている者もみられる。 ・スリムな産地として維持・発展を図っていくためには、青年部員の生産意欲を高め、部会を活性化することが必要となっている。 【活動事項】 ・産地活性化に対する青年部員の意向調査・意識醸成支援 ・青年部員の個別課題分析・解決支援 ・栽培環境を主とした基礎的栽培技術指導 【R5 年度の成果】 ・異業種との連携に向けた試みが検討されるようになった。 ・生産技術が向上し、自ら課題解決に向けて動く青年部員が現れ始めた。 ・部会全体の技術課題を明確にし、全体共有した。
2 地域のモデルとなる園芸法人の育成強化	令和4年度 ～ 令和5年度	(有)サントマト石巻、 (株)Danny Farm (株)絆絆ファーマーズ	【数値目標】 ・いちご販売金額 R3: 71.5千万円→R4: 76.3千万円→R5: 81.1千万円 実績 (79.5千万円) → (87.9千万円) →R6: 85.8千万円	4 長面地域における大規模経営体の持続的な水田農業の実現 「農地中間管理事業」 「アグリテック」関連課題	令和4年度 ～ 令和5年度	(株)宮城リス大川 (株)ゆいっこ (農)みのり	【数値目標】 ・沿岸部の地力の低い水田地域における飼料用米の収量 R3: 457kg/10a → R4: 480kg/10a → R5: 500kg/10a 実績 (538kg/10a) (544kg/10a)
産地を形成する多様な担い手のステッピングによるイチゴの産出向上	令和4年度 ～ 令和5年度	(有)サントマト石巻、 令和3年8t/10a (72%) 令和4年10.4t/10a (95%) (株)Danny Farm: 施設なす(令和3年6~11月実績 4.5t/10a) 令和4年5.3t/10a (117%) 令和5年4.9t/10a (109%) (株)絆絆ファーマーズ: ほうれんそう(令和3年8~12月実績 0.9t/10a) 令和4年1.3t/10a (144%) 令和5年1.0t/10a (111%)	【背景】 ・前年度までの実施状況・今後の改善方向 ・(有)サントマト石巻: 生育に基づく環境制御ができるようになった。病害虫管理の支援を行う。 ・(株)Danny Farm: 施設なすの養液土耕栽培を理解することができた。作付け計画の見直し等経営改善支援を行う。 ・(株)絆絆ファーマーズ: ほうれんそう周年栽培ができるようになった。省力化できる作付け品目の見直しの支援を行う。 【活動事項】 ・大規模施設トマトの生産・環境管理技術の高度化支援 ・施設なすの栽培技術向上支援 ・ほうれんそう周年栽培の生産管理技術支援 ・農業経営改善支援 【最終成果】 ・(有)サントマト石巻: 環境制御・病害虫管理ができるようになった。 ・(株)Danny Farm: 収益が得られる経営計画を作成することができた。 ・(株)絆絆ファーマーズ: 収益性の高い品目を導入することができた。	【数値目標】 ・前年度までの実施状況・今後の改善方向 ・堆肥や施肥法で3タイプの実証ほを配置し、収量やコストで有利な組み合わせを確認し、収量は538kg/10aに向上した。 ・直播栽培は復元田での多収量や肥料低減を確認できたが、全般に除草対策が課題となった。WC Sは排水不良や地力不足が課題となった。 【活動事項】 ・飼料用米の栽培技術向上支援 ・飼料用米乾田直播栽培の導入支援及び効果の検証 ・飼料用米・WCS用稲導入効果の検証支援 【最終成果】 ・飼料用米の移植栽培において、堆肥施用による地力向上と施肥法改善により、544kg/10aまで向上した。 ・乾田直播栽培については、収量が向上するなど栽培技術が向上し、播種時期を3月中旬にすることで、移植栽培の育苗播種作業との競合回避が実現できた。 ・WCSは8月中旬に収穫作業を終了させることで、通常の水稲の収穫作業の面積削減や作業踏合を回避できる。ほ場条件の改善が図られており、今後も収量の向上が課題。			

令和5年度 第2回石巻普及活動検討会

課題No.2 地域のモデルとなる園芸法人の育成強化

計画期間：令和4年度～令和5年度

対 象：（有）サントマト石巻
（株）Danny Farm
（株）絆粋ファーマーズ

チーム員：◎鈴木秀人，片岡信幸，今野誠
浅野裕斗，今野育子

2 課題と背景

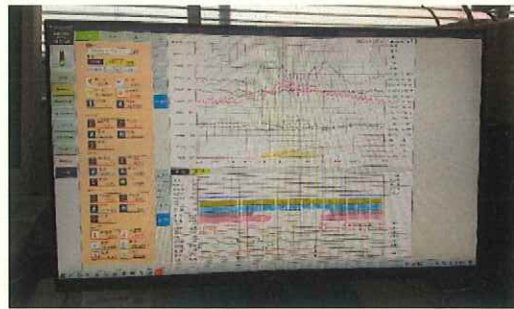
- 従来から石巻地域は園芸栽培が盛んで、震災後に企業的に園芸に取り組む事例が増えている。
- 課題対象の3社は新規ハウスの設置や、新たに複合環境制御装置を導入し栽培を行っている。



- 栽培技術や複合環境制御装置の有効活用、経営安定化の支援が必要

3 対象（有）サントマト石巻

- 施設規模：110a
- 高糖度トマト「こだわりくん」を生産
- みやぎの企業的園芸等整備モデル事業で複合環境制御装置を導入



3

3 対象（株）Danny Farm

- 施設規模：35a（新規ハウス35a）
- 施設なす及び露地ねぎを新規に栽培
- みやぎの企業的園芸等整備モデル事業で環境制御型対応パイプハウス等を導入



4

3 対象（株）絆粋ファーマーズ

- 施設規模：260a（新規ハウス約200a）
- パイプハウス200aでほうれんそう、こまつな、アスパラガス、トレビス等を新規に栽培
鉄骨ハウス60aで中玉トマトを栽培
- 令和2年度大規模園芸経営体育成事業でパイプハウス等の導入



5

対象の抱える課題

対象	課題
(有) サン トマト石巻	<ul style="list-style-type: none"> • 病害虫（萎凋症状、コナジラミ類等）管理 • 更新した環境制御設備への対応
(株) Danny Farm	<ul style="list-style-type: none"> • 施設なすの栽培技術向上 • 運転資金の確保
(株) 絆粋 ファーマーズ	<ul style="list-style-type: none"> • 基礎的な栽培技術の習得 • 新規ハウス約200aの効率的な生産管理体制

6

4 目標

定性的目標

- (1) 課題対象が導入した施設・設備を的確に使いこなし、収量が向上する。
- (2) 雇用等の増加等で地域貢献が図られる。

定量的数値目標

令和4年度→出荷量 基準年比105%

令和5年度→出荷量 基準年比110%

7

5 令和5年度の活動事項

対象	活動事項
(有) サン トマト石巻	大規模施設トマトの生産・環境管理 技術の高度化支援
(株) Danny Farm	施設なすの栽培技術向上支援 農業経営改善支援
(株) 絆粋 ファーマーズ	ほうれんそう周年栽培の生産管理技 術支援

8

6 令和5年度の具体的な活動内容

大規模施設トマトの生産・環境管理技術の高度化支援 (有) サントマト石巻

- 環境データに基づく管理支援
- 病害虫（土壌病害，コナジラミ類）防除支援



4月病害発生状況調査



6月還元消毒準備支援



7月還元消毒中

9

6 令和5年度の具体的な活動内容

施設なすの栽培技術向上支援 (株) Danny Farm

- 生育・環境データに基づく栽培管理支援
- 現地視察（農園研）を通じた栽培管理の情報提供



5月生育データに基づく肥培管理支援



6月農業・園芸総合研究所視察

10

6 令和5年度の具体的な活動内容

農業経営改善支援（株）Danny Farm

- 農業経営・就農支援センター専門家派遣を通じた経営支援

改善できた点

- 残高試算表の勘定科目等を修正し、経営が正しく把握できるようになった。
- 資金繰り表、課題整理表、中期収支計画・実績、売上計画・中間実績等を作成し、経営の見える化ができた。
→月1回は計画達成状況を確認している。
- スーパーL資金の償還延長・条件変更、JA融資で当面の運転資金が確保できた。
- 令和6年度は実行可能な経営計画を作成し、目標に向け確実な経営ができるようになった。



11

6 令和5年度の具体的な活動内容

（株）絆粋ファーマーズ

ほうれんそう周年栽培の生産管理技術支援

- 土壌分析による施肥設計の支援
- 病虫害管理支援
- 新規品目アスパラガスの栽培技術支援
- 栽培品目の変更、栽培計画作成の支援



12

7 まとめ（目標に対する進捗）

定性的目標

- (1) 課題対象が導入した施設・設備を的確に使いこなし、収量が向上する。
 - ・前年と比較すると、施設・設備の特性を理解しつつあり、収量向上に取り組んでいる（3法人）。
- (2) 雇用等の増加等で地域貢献が図られる。
 - ・地域の女性をパートとして収穫盛期に雇用できるようになった（（株）Danny Farm）。
 - ・宮城県農業大学卒業生を社員として雇用した（（株）絆粋ファーマーズ）。

13

7 まとめ（目標に対する進捗）

定性的目標

（株）絆粋ファーマーズ

2022号「みやぎの農業法人」（宮城県担い手育成総合支援協議会）掲載



1. 経営の活動状況

1.1 経営理念・ビジョン
 新入社員が活躍できる環境を整え、生産者としての誇りを持って生産活動に取り組む。消費者に届ける新鮮な野菜を通して、地域社会に貢献することを目指す。

1.2 経営方針
 新鮮な野菜の生産と販売を軸とし、地域社会に貢献することを目指す。消費者に届ける新鮮な野菜を通して、地域社会に貢献することを目指す。

1.3 経営戦略
 新鮮な野菜の生産と販売を軸とし、地域社会に貢献することを目指す。消費者に届ける新鮮な野菜を通して、地域社会に貢献することを目指す。

経営のプロフィール	
設立年月日	2019年10月1日
代表取締役	佐藤 大輔
従業員数	10名
資本金	1,000万円
所在地	宮城県仙台市青葉区
事業内容	新鮮な野菜の生産と販売

2. 法人設立までの経緯（創業の経緯）

創業の経緯は、代表取締役が、地元産の新鮮な野菜を多く生産している農家から、新鮮な野菜の生産と販売を軸とした事業を始めることになり、2019年10月に法人設立した。

3. 今後、経営に向けてのビジョン・目標

今後、経営に向けてのビジョン・目標は、新鮮な野菜の生産と販売を軸とし、地域社会に貢献することを目指す。消費者に届ける新鮮な野菜を通して、地域社会に貢献することを目指す。

14

7 まとめ（目標に対する進捗）

定量的目標 令和5年度→出荷量 基準年 110%

	基準年	令和4年度	令和5年度
(有) サントマト石巻	令和2年作 R2.8～R3.7 トマト11.0t/10a	令和3年作 R3.8～R4.7 8.0t/10a 72%	令和4年作 R4.8～R5.7 10.4t/10a 95%
(株) Danny Farm	令和3年産 なす4.5t/10a	令和4年産 5.3t/10a 117%	令和5年産 4.9t/10a 109%
(株) 絆絆ファーマーズ	令和3年8～12月 葉菜類0.9t/10a	令和4年8～12月 1.3t/10a 144%	令和5年8～12月 1.0t/10a 111%

- (有) サントマト石巻は、土壌病害で減収した。

令和5年7月定植では、接ぎ木苗、培地の更新、還元消毒により、萎凋症状が減少し、効果を実感している。

- (株) Danny Farmは、猛暑による花落ちで減収した。
- (株) 絆絆ファーマーズは、猛暑によりほうれんそうが減収した。また、調製作業労力の少ないアスパラガス、トレビスを導入した。

プロジェクトNo.4 長面地域における大規模土地利用型 経営体の持続的な水田農業の実現

計画期間：令和4年度～令和5年度

対象：（株）宮城リスタ大川、
（農）みのり、（株）ゆいっこ

チーム員：◎佐藤泰久、遠藤貴司、小野愛実、
大泉武士、川戸菜摘

1 課題と背景（1） 対象法人と地域



1 課題と背景(2)

- ・長面地区は、地力と収量の向上が課題
- ・需給調整により増加する、飼料用米・WCS用稲の収量向上が課題
- ・耕作面積の拡大により乾田直播等の省力技術の導入が必要

2 目標

◆定性的目標

- ・主食用米・飼料用米・WCSの収量性の向上と安定を図るとともに、経営リスク・労働力の分散を図る。
- ・規模拡大に伴う作期分散を図るため、乾田直播栽培を組み合わせた体系を構築する。

◆定量的数値目標

年度	令和3年 (実績※)	令和4年	令和5年
収量 (kg/10a)	457kg	480kg	500kg

※長面地域の飼料用米の収量

3 令和5年度の活動事項

(1) 飼料用米の栽培技術向上支援

実証ほによる検証

現地検討会

勉強会による栽培技術向上

(2) 飼料用米乾田直播栽培の導入支援及び効果の検証

実証ほによる検証

関係機関との意見交換会

(3) 飼料用米・WCS用稲導入効果の検証支援

対象法人、関係機関への聞き取り調査

4 令和5年度の具体的な活動内容

(1) 飼料用米の栽培技術向上支援

①実証ほによる検証

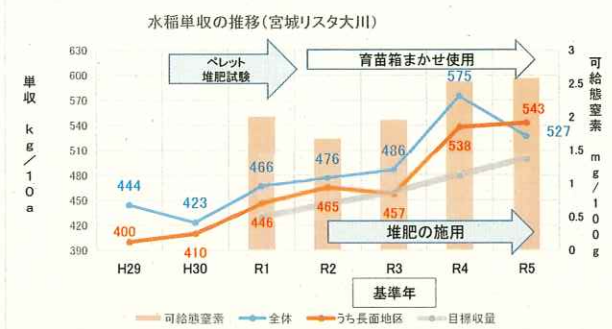
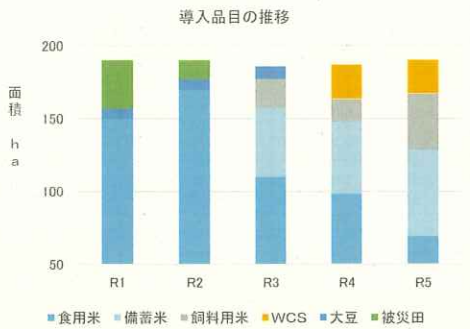
試験区	推定粗収量 (kg/10a)	肥料費 (円/10a) 本田での散布回数	
R4堆肥2t 速効性+苗箱まかせ	591	7,220 2回	リスタ大川
R5堆肥2t 速効性+苗箱まかせ	562	7,878 2回	
R4堆肥800kg、鶏糞50kg ひとめぼれ専用	560	8,433 3回	みのり
R5堆肥3t ひとめぼれ専用	603	8,995 2回	

リスタでは、R4で試験した収量の高い施肥体系を選定し、R5に実証した。R4の収量は下回ったが562kg/10aと十分な収量を得られた。みのりでは、稲わら交換により堆肥を多く施用し、600kg/10a以上の収量を得た。肥料高騰で肥料代はやや上昇したが、標準的な肥料代(ひとめぼれ専用40kg+NK化成12.5kg 9,179円)を下回っている。

4 令和5年度の具体的な活動内容

(1) 飼料用米の栽培技術向上支援

経営面積・収量・地力・施肥体系の変化



リスタでは、R3より飼料用米・備蓄米に取り組み、R4よりはWCSに取組を開始した。R5には主食用米の作付け比率は35%程度となっている。長面地区の収量はH29では400kg/10aであったが、堆肥施用後より上昇し始め、R4・R5には540kg/10a程度までに向上し、可給態窒素量も向上している。

4 令和5年度の具体的な活動内容

(1) 飼料用米の栽培技術支援

②関係機関との意見交換：現地検討会(7/25), 成績検討会(2月)

③勉強会による栽培技術向上(7/14、8/31、11/22)

株式会社宮城リスタ大川社員ら



現地検討会



勉強会

4 令和5年度の具体的な活動内容

(2) 飼料用米乾田直播栽培の導入支援及び効果の検証①

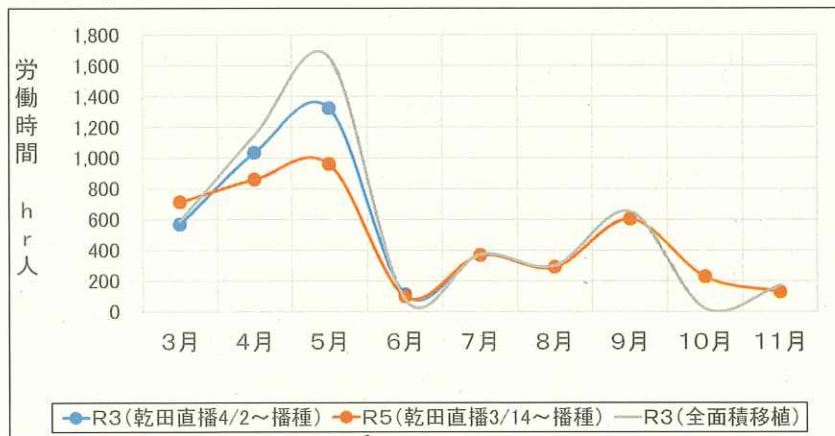
試験区	施肥体系	坪刈粗玄米 (kg/10a)	肥料費 (円/10a) 散布回数
R4大豆後	ケイカル20kg/10a 直播専用肥料 20kg/10a	667	5,116 2回
R5大豆後	ケイカル30kg/10a 直播専用肥料 20kg/10a	842	6,046 2回
R4水稲連作	堆肥1t/10a、ケイカル20kg/10a 直播専用肥料 30kg/10a	676	7,269 3回
R5水稲連作	堆肥1.5t/10a、ケイカル30kg/10a 直播専用肥料 30kg/10a	684	8,450 3回

※直播専用肥料は乾田直まき君N26

復元田では基肥の経費を65%~71%に削減することができた。

4 令和5年度の具体的な活動内容

(2) 飼料用米乾田直播栽培の導入支援及び効果の検証②



乾田直播（3月播種）の導入で、5月の労働時間を58%に削減できた。

4 令和5年度の具体的な活動内容

(3) 飼料用米・WCS用稲導入効果の検証支援

対象法人，関係機関への聞き取り調査等（随時）

- ・5年度は収穫時期の土壌状態が良く、収穫作業は順調
→ 本暗渠の追加工事で排水性が向上する見込み。
- ・今後も土づくりを継続し、収量向上を図る。

R4：1.9クール/10a → R5：1.9クール/10a

生育不良ほ場の土壌調査の実施 → 砂質が強い漏水田、地力も乏しい。



WCS収穫作業



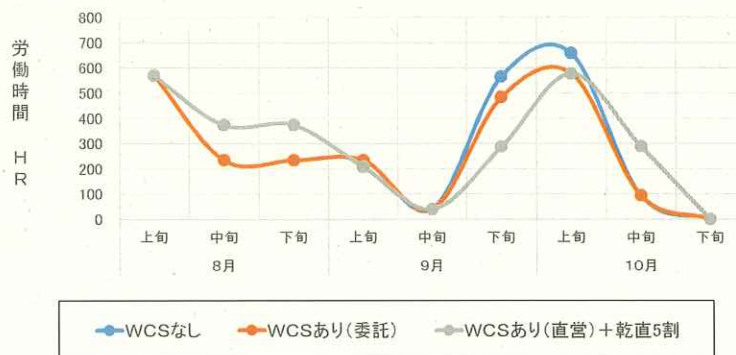
WCS生育不良箇所



暗渠追加工事

4 令和5年度の具体的な活動内容

(3) 飼料用米・WCS用稲導入効果の検証支援



導入効果→現在はWCSは収穫作業を委託しているため、8月の作業に影響しない。
WCSの収穫作業を実施しても、8月中に終了するのでコンバイン収穫作業面積と競合しない。
WCS導入で、コンバイン収穫作業面積が減少し、作業日数の減少するのでオーリーブ収穫作業と競合が軽減する。
乾田直播栽培の割合を50%とすると、収穫作業のピークが軽減する。

5 まとめ

◆定性的目標

- ・主食用米・飼料用米・WCSの収量性の向上と安定を図るとともに、経営リスク・労働力の分散を図る。

→地力の向上・施肥改善により収量が向上。稲態様転作作物の導入により主食用米の価格乱高下に対応。WCS導入により作期の分散が実現

- ・規模拡大に伴う作期分散を図るため、乾田直播栽培を組み合わせた体系を構築する。

→復元田での乾田直播栽培の肥料費削減効果や移植栽培との作業競合回避のメリットが確認できた。

◆定量的数値目標

年度	令和3年 (実績※)	令和4年	令和5年
目標収量(kg/10a)	457	480	500
実収量(kg/10a)	457	538	544

※長面地域の飼料用米の収量（リスタ聞き取り実収）

令和5年度継続プロジェクト課題
実績報告，次年度活動計画

1 表紙

産地を形成する多様な担い手のステップアップによる

いちごの産出額向上

2 対 象

J A いしのまき 共販部会

- ・石巻苺生産組合16戸
- ・河南いちご生産組合13戸
- ・やもといちご生産組合7戸

農業法人

- ・(株)いちごランド石巻
- ・(株)トライベリーファーム
- ・(株)アグリパレット
- ・(株)イグナルファーム
- ・(株)サンエイト

新規参入

- ・(株)黄金ファーム
- ・(株)アソラ

3 課題と背景 ① JA部会



背景と課題点

- ・歴史は長く巨理地域に次ぐ県内第二の産地
- ・近年、高齢化により人数、面積、販売額とも減少傾向

指導の方向

- ・環境制御等
新しい技術の普及
- ・面積当たり収量を向上することによって販売金額を維持～拡大



3 課題と背景 ② 農業法人



背景と課題点

- ・震災復興事業等により先進的な施設が建設され、法人による先端技術を導入した栽培が行われている
- ・今後の産地の中核になる存在
- ・施設の規模、能力を最大限に発揮した出荷量には至ってない
- ・それぞれの法人があらためて課題や目標を確認し改善に取り組む必要がある

指導の方向

- ・各法人がステップアップするための課題、目標を確認する
- ・確認された課題の解決、目標の達成に必要な技術改善などに取り組むことを支援



3 課題と背景 ③ 新規参入者



背景と課題点

- ・ 少数ではあるが新規参入の動きもある
- ・ (株)黄金ファーム：
一昨年から栽培開始
昨年度補助事業を導入
規模拡大、高設栽培に
取り組む
- ・ (株)アソラ：
大崎市鹿島台から移転
昨年度から栽培を開始
した

指導の方向

- ・ 基本技術を習得し、安定した収量を確保できるように指導
- ・ 新規参入が経営安定していくことが地域の産出額向上につながる



4 目標

< 定性的目標 >

- ・ JA部会員の各戸において課題となる技術の改善や環境制御など新しい技術の習得が進みレベルが向上する
- ・ 各農業法人の課題改善が進み、収益が向上する
- ・ 新規参入者が基本技術を習得し安定した栽培ができるようになる

< 定量的数値目標 >

いちご販売金額

R3: 71.5千万円 → R4: 76.3千万円 → R5: 81.5千万円 → R6: 85.8千万円

(R4実績:79.5千万円)

今年度目標

R5: 81.5千万円

(R5実績:87.9千万円)

5 令和5年度の活動事項

JAいしのまき共販部会

- ・石巻苺生産組合16戸
- ・河南いちご生産組合13戸
- ・やもといちご生産組合7戸

① JA部会への技術改善と環境制御など新しい技向上支援

農業法人

- ・(株)いちごランド石巻
- ・(株)トライベリーファーム
- ・(株)アグリパレット
- ・(株)イグナルファーム
- ・(株)サンエイト

② 各農業法人の課題改善による収益向上への取り組み支援

新規参入

- ・(株)黄金ファーム
- ・(株)アソラ

③ 新規参入者への技術向上・安定指導

<活動の流れ>

令和4年度



JA部会 環境制御など新たな技術の取り組み指導

法人 各法人で確認した課題改善の取り組み支援

新規 栽培開始支援 基本技術指導

令和5年度



定量的数値目標

定性的目標

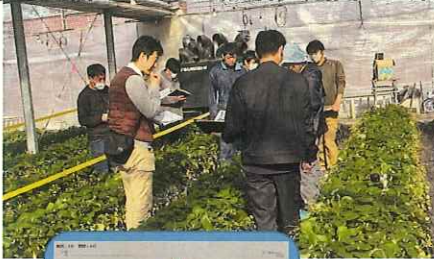
JA部会 各戸の課題確認 育苗指導 各戸の課題改善、環境制御など新たな技術の向上

法人 取り組みの成果確認 改善に向けた取り組み継続+収益向上支援

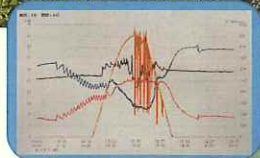
新規 1作目反省・課題整理 育苗基本技術、栽培準備 技術習得、安定栽培に向けた指導

6 令和5年度の具体的な活動内容

① JA部会への技術改善と環境制御など新しい技術向上に向けた支援



- ・部会組織による検討会，巡回を利用した指導
- ・個別に対応する詳細な指導
- ・コンサルティング技術高度化研修(矢本6名)



- ・部会員それぞれの技術レベル向上してる
- ・部会平均収量
R3年産3.8t/10a → R4年産4.0t/10a
→R5年産4.2t/10aと向上
- ・環境制御以外にも各戸の状況に応じて新たな技術改善に取り組みが進んでいる(土壌消毒, CO2施用など)

② 各農業法人の課題改善支援

- ・各法人ごとの課題点，重点的に取り組むべき目標を整理
- ・その改善に向けた取り組みを支援

少しずつ効果が出てきている
R5産では全法人が販売金額プラス

法人

- A：病害による減収を無くすために育苗，栽培ベンチの消毒を改善
- B：複数あるハウスの生育，収量を平均して向上
- C：規模拡大した新規ハウスの収量を安定して確保
- D：栽培担当社員の技術を向上する
- E：基本技術を見直す
冬期間の休み(収量低下)，小玉果を軽減する



複数あるハウスによって収量に差がある



状況の確認



ハウス内の環境確認



ハウスごとに管理改善

③ 新規参入者への基本技術指導

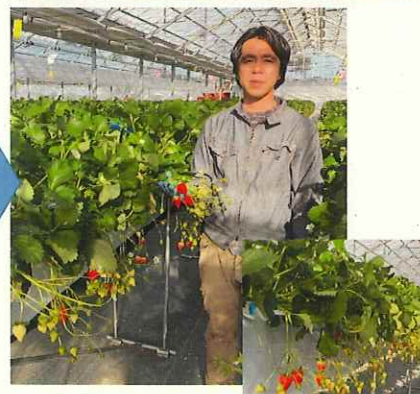
(株)黄金ファーム

- ・ 栽培管理の基本技術指導
R5産3.9t/10a
(補助事業の目標5.6t/10a)
- ・ 1作目の経験生かして
R6産栽培 技術指導継続



(株)アソラ

- ・ 栽培管理の基本技術指導
R5産4.8t/10a
(自社目標5.6t/10a)
- ・ 1作目の課題整理
→栽培面
販売面
労務管理面 改善指導



7 まとめ (目標に対する進捗)

定性的目標に対して

- ・ JA部会：
36名中 環境制御に取り組む12名は習得が進み収量向上している。
その他農家も各自収量向上に必要な技術改善に取り組み効果が上がっている。
R3年産3.8/10a → R4年産4.0t/10a → R5年産4.2t/10a に向上した。
- ・ 農業法人：
それぞれ課題改善に取り組みR5産栽培では全法人の販売金額が向上した。
しかしコストも増加しており、収益性向上に向けてさらに取り組み継続してる。
- ・ 新規参入：
1作目の栽培を通して基本技術を学んだが、目標の収量、金額には達しなかった。
R6産(2作目)では前作の経験生かし管理の精度が上がっており技術習得が進んでいる。

定量的数値目標に対して

いちご販売金額

R3年産71.5千万円→R4年産76.3千万円→R5年産81.1千万円→R6年産85.5千万円
R4年産実績79.5千万円 R5年産実績87.9千万円



R6 来年度

販売金額が増えている割合に対して
経常利益の増加はまだ小さい

燃油、資材などの価格高騰
人件費の上昇等 コストも大きくなって
います。



この視点を重視して
次の課題改善に向けた支援を継続して
いきます。

小ねぎ産地における次世代の人材育成



対 象 JAいしのまきスリムねぎ部会青年部（11人）

計画期間 令和5年度～令和7年度

チーム員 ◎玉手英行、高田千春、今野育子、浅野裕斗

課題と背景

桃生地区では、小ねぎの個別農家が園芸における主な担い手

JAいしのまき 桃生スリムねぎ部会

部会員数 28戸(60歳以上20人)

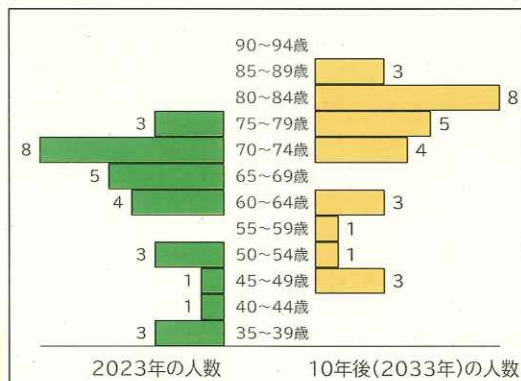
近年の年間販売額は2億円台

10年後は高齢化が著しい…

が、これからの部会を担う
若手もいる！





いまのうちに
次世代の
人材育成を！



スリムねぎ部会員の年齢構成（2023年現在）

対象、目標	
対象	<p>スリムねぎ部会青年部員 11人</p> <p>50代以下の部会員と、部会員の子弟で構成 (50代 3人、40代 3人、30代 5人)</p> <p>部会長、副部会長等の部会執行役員も含まれる</p>
定性的 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 産地の課題が共有化される ・ 部会外の団体との交流や連携が検討される ・ 青年部員が自身の課題を理解し、改善に取り組む
定量的 目標	<p>R4年実績よりも出荷量が上回った青年部員数 (R5 : 2人 → R6 : 4人 → R7 : 7人)</p>

令和5年度の活動事項			
青年部員における 産地の課題把握・ 意識醸成支援	 意向調査	 調査結果の共有 解決策の検討	 異業種との 連携検討
青年部員の 個別課題分析・ 解決支援	 聞き取りによる 課題把握	 伴走的に 巡回指導	 自発改善の 促し
栽培環境を主とし た基礎的栽培技術 指導	 土壌分析・診断 による施肥指導	 かん水や防除の 確認	 部会全体への 情報共有

令和5年度の具体的な活動内容

青年部員における産地の課題把握・意識醸成支援



調査には意識醸成が必要と判断し、
先んじて異業種との交流支援を実施



青年部による「水産の日販売会」での直売参加を支援（計3回 出展）
水産加工業者とのつながりができ、異業種連携への兆しが見えた

青年部員の個別課題分析・解決支援①

部会長と青年部長を重点的に巡回

部会長

- ・50代前半
- ・就任1年目
- ・技術研さんや部会の活性化に意欲的

10年後も部会を代表する
存在になってほしい！



課題：施設の塩類集積



土壌診断を定期的実施、
施肥提案



施肥を見直し、品質向上！
出荷量・販売額・秀品率が前年よりUP！



青年部員の個別課題分析・解決支援①

部会長と青年部長を重点的に巡回

青年部長


- ・50代前半
- ・就農4年目
- ・基礎に不安抱く

将来の就農者にとって
頼れる先輩になってほしい！


課題：基礎や・ほ場条件の再確認

➔




技術指導（例：かん水ムラの把握）



➔



**栽培技術を見直し、初期生育が安定！
販売額・秀品率が前年よりUP！**

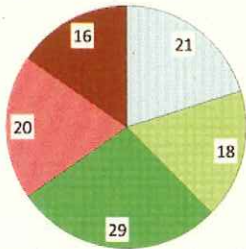
近隣の青年部員にも声がけする等、周りを見る余裕が出てきた

栽培環境を主とした基礎的栽培技術指導

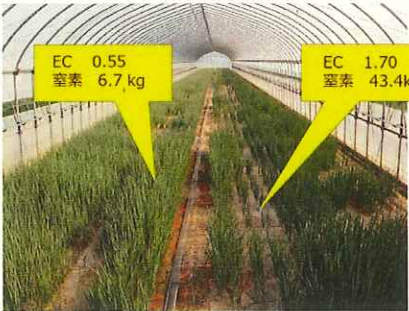



100点を超える土壌分析

窒素成分の検査結果（点数）



窒素成分	点数
5kg未満	21
5～10kg未満	18
10～20kg未満	29
20～40kg未満	20
40kg以上	16



EC 0.55
窒素 6.7 kg

EC 1.70
窒素 43.4kg

生育時に土壌分析

- ➔ 生育ムラの原因を理解しやすくなる
- ➔ 部分施肥や減肥に取り組む人も出てきた！

栽培環境を主とした基礎的栽培技術指導

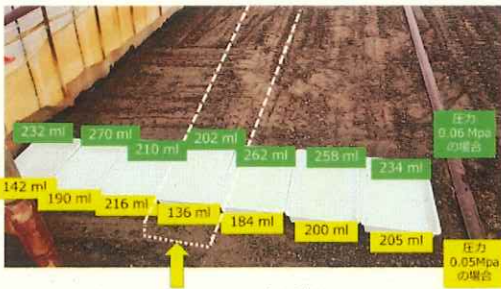


かん水量測定

かん水量の「見える化」を図った

➡ 水が不足しがちな箇所を発見

➡ ベテラン部会員から
アドバイスが！



このハウスではこのラインが水が少ない！



かん水量を測ったハウスと同じ並びの株の生育の様子

草丈33cm程度 草丈27cm程度 草丈33cm程度

栽培環境を主とした基礎的栽培技術指導



部会全体への
情報共有



土壌分析を行った結果、見えてきた傾向

- 1 極端な過剰施用になっているハウスは確かにあるが、全てが過剰ではない
- 2 ハウスの中でも偏りがあり、通路寄りの列は濃度が高く、サイド寄りには低くなりがち



- 3 なぜか硫酸イオンが多く検出される
(ECが高いサンプルは、もれなく硫酸が多い)

部会全体の傾向をつかみ、12月に部会の研修会で報告

部会全体で技術課題を認識！

2023年産では前年より出荷量が増加した青年部員は2人！

(猛暑の影響で前年より出荷量が減る中、前年よりも増えた部会員は28人中4人)

定量的目標

R4年実績よりも出荷量が上回った青年部員数 (R5:2人→R6:4人→R7:7人)

R5実績：2人

まとめ		
活動項目	成果	課題
青年部員における産地の課題把握・意識醸成支援	<ul style="list-style-type: none"> ・意向調査に向けて意識付け ・水産との連携に前進 	<ul style="list-style-type: none"> ・意向調査の実施 ・部会としての課題の共有化
青年部員の個別課題分析・解決支援	<ul style="list-style-type: none"> ・重点指導者2人は前年より出荷額増 ・2人は自発的に改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・出荷量が減った青年部員 ・経営診断の未実施
栽培環境を主とした基礎的栽培技術指導	<ul style="list-style-type: none"> ・部会全体に減肥や土壌診断の意識が芽生えた 	<ul style="list-style-type: none"> ・塩類集積した施設の改善 ・虫害（ネダ二類）への対策 ・猛暑対策

令和6年度の計画	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・産地の課題が共有化され、活性化への取組が検討される ・青年部員が自身の課題を理解し、改善に取り組む ・R4年実績よりも出荷量が上回った青年部員数 4人
青年部員の個別課題分析・解決支援	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  聞き取りによる 課題把握 </div> <div style="text-align: center;">  伴走的に 巡回指導 </div> <div style="text-align: center;">  部会全体への 情報共有 </div> <div style="text-align: center;">  自発改善の 促し </div> </div>
青年部による産地活性化に向けた取組検討支援	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  選別場導入 シミュレーション </div> <div style="text-align: center;">  水産との 連携支援 </div> <div style="text-align: center;">  役員会・ 部会全体への 提案の支援 </div> <div style="text-align: center;">  部会全体への 意向調査 </div> <div style="text-align: center;">  意向調査結果 のまとめ </div> </div>

重点課題活動実績

(3) 重点課題活動実績

1 新規就農者の確保・育成支援〔重点活動〕

対象 就農希望者、認定新規就農者、経営開始資金活用者、
青年等就農資金借受者等

農業の後継者確保育成は喫緊の最重要な課題であり、国では新規就農者育成総合対策をもって農業への人材の一層の呼び込みと定着を図っている。これらの施策も相まって、本年度の新規就農相談13人33回の相談に対応した（R6.1現在）。

スムーズな就農スタート、安定経営での就農定着を促進するため、就農希望者が希望する就農スタイルの丁寧な聞き取りや就農に当たっての情報提供、アドバイス、経営シミュレーションの作成支援等に当たった。

引き続き、就農希望者が描く夢の実現に向け、現実的な就農シミュレーションの策定を支援していくことで、確実な後継者確保育成を進めていく。



就農相談
(経営シミュレーション作成指導の様子)

2 土地利用型法人への輪作体系の導入推進〔重点活動〕

対象 (株)入沢ファーム、(農)エコルファーム、(株)サダ-ファーム牛田、
(有)アグリドなるせ、(農)おおしお北部、(株)めぐいと

近年、水田において野菜等の高収益作物の導入が図られており、石巻管内では、ばれいしょやさつまいもが増加している。特に、ばれいしょは、東松島市に加え、石巻市でも生産が増え、管内全体で令和5年度の栽培面積は41haとなった。令和5年度は、現地検討会や実績検討会などを開催して、栽培技術の向上に取り組んだ結果、目標とする単収3tを超える法人もあった。その他、管内では、子実用とうもろこしの栽培にも取り組んでおり、石巻の2法人による実証試験では、ドローンによる病害虫防除や専用収穫機械の導入により、実収量は700~800kg/10a程度となり、昨年比べて格段に収量が向上した。



ばれいしょの収穫

3 法人経営体の経営安定支援 [重点活動]

対象 (株)デ・リーフデ大川、(株)デ・リーフデ北上、
(株)イグナルファーム、(農)奥松島グリーンファーム

補助事業を活用した法人や人材の定着・育成に取り組む法人を支援した。

(株)デ・リーフデ2社には生育調査や病虫害防除の情報提供、外部からの視察対応時にサポートしている。特に令和5年度は異常気象による夏の高温で(株)デ・リーフデ大川のトマトとパプリカ生産が激減したため、夏の高温対策の検討を行った。また、(株)イグナルファームにはきゅうりの生産及び資金繰り計画の作成や財務基盤の安定化などを支援し、(農)奥松島グリーンファームには取組が始まったたまねぎ直播栽培の技術支援等を行った。



デ・リーフデ大川社のオランダ型温室
トマトとパプリカを生産

4 地域計画の策定支援 [重点活動]

対象 地域計画における「地域内の農業を担う者一覧」に位置づけられることが見込まれる経営体 等

農業者の高齢化や農業者の減少により、今後益々、耕作放棄地の拡大や地域の農地が適切に利用されなくなることが懸念される。この課題に対応すべく、令和4年5月に農業経営基盤強化法の一部が改正され、地域計画の策定が義務づけされた。これは、地域での話し合いにより、目指すべき農地利用の姿を明確にし、次の世代へ着実に農地を引き継いで行こうというものである。

管内2市の農業委員会、農政関係各課を中心に、農業者等に向けた今後の農地の活用意向調査や地域計画策定会議が生まれ、将来どのように農地を利用していくか、地域農業の維持・発展方向についてそれぞれの地区の担い手による話し合いが実施され、必要に応じて適宜助言等を行った。



集落における目標地図作成に向けた
地域計画策定会議

令和6年度普及指導計画
新規プロジェクト課題活動計画

令和6年度普及指導計画プロジェクト課題概要

石巻農業改良普及センター		概要	
課題名	計画期間	対象(地域等)	概要
1 産地を形成する多様な担い手のスナップアップによるいちごの産出額向上 (継続課題) 「園芸振興」 「アグリテック」関連課題	令和4年度 ～ 令和6年度	J A いしのまき 共販部会 (06戸) 石巻産産組合 (03戸) 河内いちご生産組合 (7戸) やまといちご生産組合 (7戸) (株)いちごラボ (石巻市) (株)アグリ・パレット (石巻市) (株)ドライブイン・ファーム (石巻市) (株)黄金ファーム (石巻市) (株)イグナルファーム (鹿野町) (株)サンエイト (鹿野町) (株)アノラ (鹿野町)	【背景】 ・青森地域のいちご生産は、直理地域に次ぎ県内第二の産地となっている。 ・近年、高齢化により栽培者数・面積が減少、これに伴い販売額も減少傾向にあるが、需要が底堅い品目で単価も比較的高く安定している。 ・環境測定機器の導入等、新たな取り組みの動きがあり、栽培技術の向上により収量、販売額の増加が期待できる。 ・農業法人による先端技術を用いた栽培が行われている。 ・新規品目としていちごに取り組み農業法人の動きがある。 【これまでの活動・成果・今後の改善等】 ・J A 共販部会：新たに12戸が環境制御機器を導入。新技術の普及により収量は対前年比10%向上。 ・各農業法人：改善点を確認し、R5産栽培から課題解決へ向けた取組を開始 ・補助事業等を活用し、令和5年度から養液栽培を開始した法人11、新規栽培開始法人1であった。 ・コスト削減の必要から法人によっては養液の単肥施用や保温対策の改善に取り組む法人がある。 【活動事項】 ・J A 部会への技術改善と環境制御など新しい技術向上に向けた支援 season3 ・各法人の課題改善による収益向上への取組支援 season3 ・新規参入者への技術向上・安定支援 season3 【数値目標等】 ・いちご販売金額：85.8千円 (R6) ・実績値：87.9千円 (目標：81.1千円) (R5)
2 小ねぎ産地における次世代の人材育成 (継続課題) 「園芸振興」 関連課題	令和5年度 ～ 令和7年度	J A いしのまき スリムねぎ部会 青年部 11人	【背景】 ・J A いしのまき スリムねぎ部会は28人で生産活動に取り組んでいるが、高齢化の進行や販売単価の低迷等により、生産意欲の低下がみられている。 ・部会には青年部(11人)が組織されており、青年部員が部会の主要な役割(部会長等)を担っていることから、部会の活動方針等については青年部員の関与が大きくなっている。 ・青年部員は、各々が課題を抱えているが、販路の拡大や共同選別の取組など部会の方向性について前向きに考えている者もみられる。 ・スリムねぎ産地として維持・発展を図っていくためには、青年部員の生産意欲を高め、部会を活性化することが必要となっている。 【これまでの活動・成果・今後の改善等】 ・現場巡回での技術支援により、重点指導対象者の技術改善が図られた他、研修会等による部会員への波及効果も見られ、青年部員2人の出荷量が前年実績を上回った。 ・青年部員による産加工業者との連携から、販売額向上につなげる新たな販路の開拓に向けた動きが活発になった。 【活動事項】 ・青年部員の個別課題分析・解決支援 ・青年部による産地活性化に向けた取組組み検討支援 【数値目標等】 ・出荷量がR5年より上回る青年部員数 4人 ・R5実績値：2人
3 水田におけるばれいしよ及びさつまいもの安定生産 (新規課題) 「園芸振興」 関連課題	令和6年度 ～ 令和7年度	(株)めぐいーと (東松島市：ばれいしよ) (農)おとしお北部 (東松島市：ばれいしよ) (農)エコルプファーム (石巻市：さつまいも)	【背景】 ・石巻地域では平成25年からばれいしよ、令和元年からさつまいも栽培に取り組み農業者が増えて作付面積が年々拡大し、令和5年度の作付面積は、ばれいしよ39ha、さつまいも6.9haとなっている。 ・収益性を確保する目安として、ばれいしよは3.0t/10a、さつまいもは2.0t/10aとされている。(農園研) ・しかし、水田を活用して概ね3～5ha以上の作付けの場合、ばれいしよの排水性に差があることや作業量の拡大と連動し排水対策や病害虫防除が不十分となり、目標収量を確保し難い課題となっている。 ・ばれいしよ、さつまいもは水田を活用した露地野菜品目として作付け拡大が実需者からも期待されている。 ・今後、生産拡大を図っていくためにばれいしよの排水対策の実施や病害虫防除技術の普及定着が必要となっている。 【活動事項】 ・ばれいしよ技術対策支援活動 ・さつまいも技術対策支援活動 ・情報発信活動 【数値目標等】 ・ばれいしよ平均収量：2.4t/10a (R6年度) ・現状値：2.2t/10a ・さつまいも平均収量：1.8t/10a (R6年度) ・現状値：1.5t/10a
4 省力化技術の活用による優良大豆種子の生産性向上 (新規課題) 「アグリテック」 関連課題	令和6年度 ～ 令和7年度	(株)グリーンアリス (石巻市) (有)高砂産産 (石巻市) (農)アスターファーム (石巻市) (農)ドリムフィールド (石巻市) (農)たてふアーム 和 (石巻市) 妊婦連産産組合 (石巻市) (株)ばるのファーム (鹿野町)	【背景】 ・宮城県は北海道に次ぐ全国2位の大豆生産地、石巻地域は県産大豆種子の約20%を生産している。 ・6法人、1生産組織が種子大豆生産を担い、令和5年度はタンレイ7.5ha、タチナガハ10.0ha、ミヤギシロメ11.4ha、計28.9haが作付けされている。 ・タンレイは需要が高いが、紫斑病に弱く、選別作業のコストがかかるとともに、作付けが遅延されている。 ・主に病害粒等を取り除くために行われる手選別作業に手間やコストがかかるため、種子大豆生産から撤退や縮小の意向を示す生産者が出ている。(R4年度に1法人撤退) ・湿害、高温の影響や紫斑病等の病害虫、雑草対策、収穫時の青立ちにより、収量、品質が低下する事例が見られる。 ・大豆は水田活用の重要品目であり、高位安定生産による生産性の向上が必要となっている。 ・以上の要因により対象の増収・高品質や作業性の向上による効率化への意向は高まっている。 【活動事項】 ・収量・品質向上のための栽培技術指導 ・アグリテック活用による省力化と機械選別による軽労化(作業時間、人数等)の評価 【数値目標等】 ・現状→R6 目標達成率：3/7組織が前年収量を上回る →R7 目標達成率：5/7組織がR5年収量を上回る

水田におけるばれいしょ 及びさつまいもの安定生産

(令和6年度～7年度)

対象： (株) めぐいと
(農) おおしお北部
(農) エコルファーム



チーム員：浅野裕斗 片岡信幸 鈴木秀人 今野誠 小野愛実

✓ 課題の背景

- ほ場整備によって水田での高収益作物の導入が進んでいる。
- 石巻地域では近年ばれいしょとさつまいもの作付面積が増加し、令和5年度の作付面積はばれいしょ39ha、さつまいも6.9haとなっている。
- これまでの取組から、ばれいしょでは「極めて排水性の良いほ場」で栽培し、「病害虫防除の徹底」を行うことで、高収量を得られることがわかっている。

✓ 課題の背景

・ 水田の利用

園芸作物を栽培するうえで
排水対策は必須

水田作物との輪作体系が必要



・ 大面積での栽培

ほ場や病虫害防除の優劣で
収量、品質が左右される



✓ 対象①

(株) めぐいと

- ・ 令和5年度 作付面積8.5ha
- ・ 播種は(農) おおしお北部に委託、収穫は委託と(株) カルビーポテトから収穫機のレンタル
- ・ ほ場をある程度選定できる。
- ・ 作業機械の導入には規模拡大が必要



✓対象②

(農) おおしお北部

- 令和5年度 作付面積27ha
- 自社で播種機、収穫機所有
- 大面積のためほ場の選定には限界がある。
→排水対策は条件の悪いほ場から順次対応
- 薬剤選定によってコストが増減する。

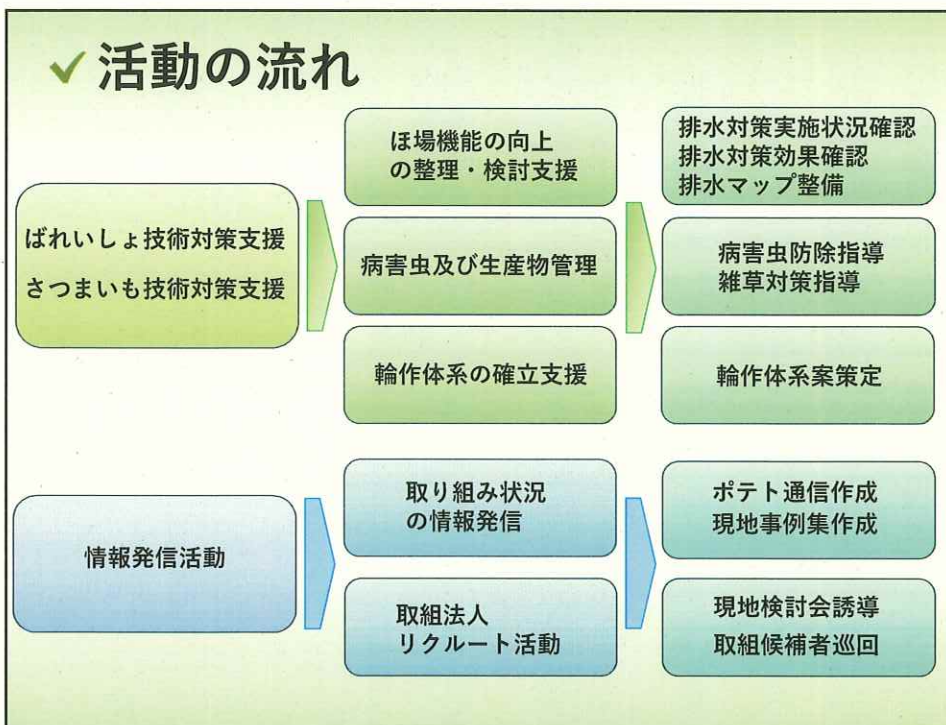


✓対象③

(農) エコルフーム

- 令和5年度 作付面積1ha
- 植付機は自社で所有、収穫は他社構成員から収穫機借用
- 比較的排水性の良いほ場を選定できている。
- 収穫の労力が大きく、面積の拡大は容易ではない。

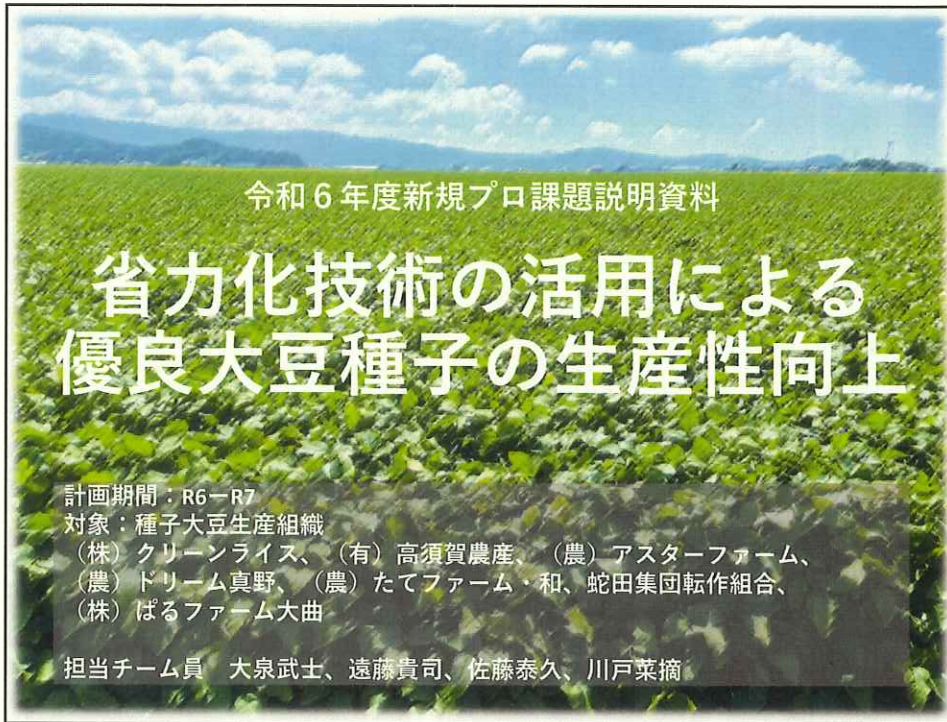




✓ 課題解決のイメージ

- ・ 目標収量を安定して生産できるようになり、所得が向上する。
- ・ 輪作体系の経営収支を算出し、経営改善に生かせるようになる。





背景

宮城県は大豆収穫量全国2位！

順位	都道府県	収穫量(t)
1位	北海道	108,900
2位	宮城県	15,800
3位	秋田県	11,500

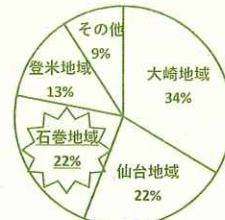
参照：農水省 令和4年産大豆（乾燥子実）の収穫量

石巻地域は

県内大豆生産の約22%

種子大豆生産は約20% を占める

令和4年産大豆収穫量



参照：e-Stat 作物統計令和4年産市町村別データ



管内種子大豆生産：6法人、1組織

タンレイ7.5ha、タチナガハ10.0ha、ミヤギシロメ11.4ha

合計28.9ha

課題

収量・品質低下要因

- 気象条件：湿害、干ばつ、高温、降ひょう等
 病害虫：紫斑病、黒根腐れ病
 カメムシ類、フタスジヒメハムシ
 アブラムシ類(褐斑粒)、ハダニ類等
 その他：雑草、青立ち株



実例) 令和3年産ミヤギシロメ

契約数量：18,720kg → 確保数量：18,180kg (△540kg)

令和4年産タンレイ

契約数量：28,800kg → 確保数量：19,920kg (△8,880kg)

特に紫斑粒、褐斑粒を取り除くための手選別が負担！(種子伝染性病害対策)

→ 実際に種子大豆生産に対し撤退や縮小の意向を示す生産者が出ている。

課題

タンレイ

- (有) 高須賀農産：紫斑病、生産性向上
 (農) アスターファーム：紫斑病、雑草、生産性向上
 (農) たてファーム・和：紫斑病、生産性向上

↳ 適期防除、除草体系の検討、省力・効率化の検討

ミヤギシロメ

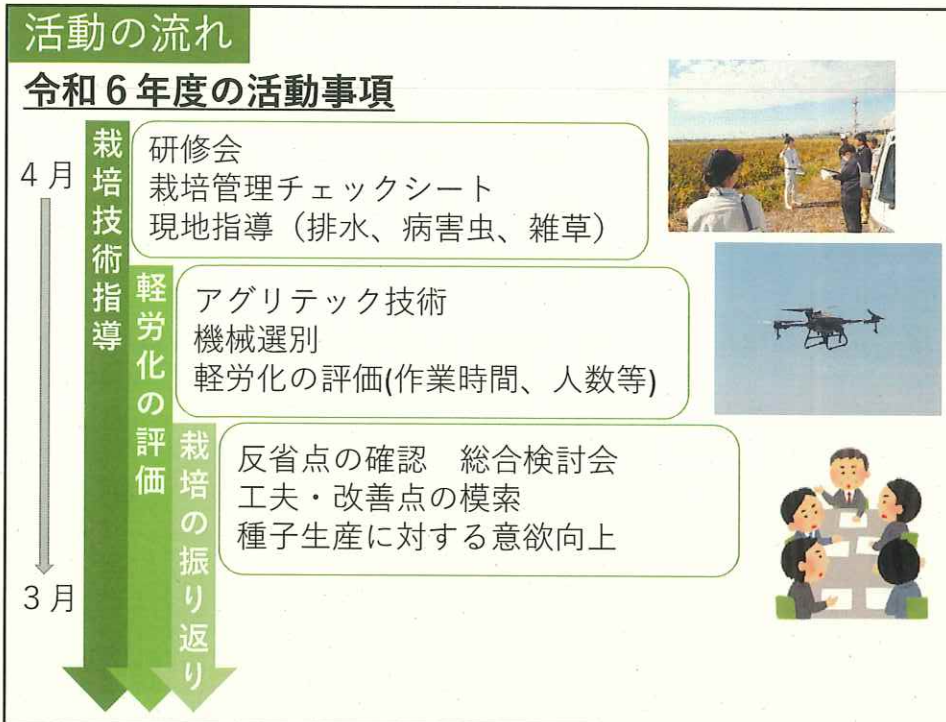
- (株) クリーンライス：褐斑病、排水、生産性向上
 (株) ぱるファーム大曲：褐斑病、黒根腐れ病

↳ 病害虫の適期防除、排水対策、省力・効率化の検討

タチナガハ

- (農) ドリーム真野：病害虫、排水、生産性向上
 蛇田集団転作組合：雑草、生産性向上

↳ 病害虫の早期発見・適期防除、排水対策の徹底
 雑草防除体系の見直し、省力・効率化の検討



課題解決のイメージ

令和6年度

定性的目標

- 各生産者自身が収量・品質を上げるための改善策を自ら考え、実践する。

定量的目標

- 目標達成率：7組織中3組織が前年収量を上回る。

令和7年度

定性的目標

- 種子大豆生産者の栽培技術が高まり、収量や品質が向上する。
- アグリテックの活用や収穫物の機械選別により、省力化や作業精度が向上し、種子大豆生産者の作付意欲が高まる。

定量的目標

- 目標達成率：7組織中5組織がR5年収量を上回る。
- 